

# サステナビリティ活動の目標と結果

## 2024年度の目標と結果

★★★目標達成 ★★目標一部達成 ★目標未達成

ESG	活動組織	2024年度の目標	結果	評価
環境	環境安全管理委員会	1. 無事故・無災害に向けた取り組みの強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ゼロ災」に向けた活動の強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>① トップ・安全管理者自ら現場巡視を行い是正・指導する</li> </ul> </li> <li>● 不安全な状態・行動の撲滅に向けた安全活動の強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 作業手順書の整備、教育および理解度確認の徹底</li> <li>② 規則遵守の徹底および5S活動の推進</li> </ul> </li> <li>● 古河機械金属グループ各社の業務形態を踏まえた危険感受性向上を図るための教育の充実                             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 危険予知訓練(KYT)の強化</li> <li>② リスクアセスメント実施の徹底</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事故災害発生件数が減っていない状況の中、重大事故が発生。度数率1.03、強度率1.55と前年度に対し微減にとどまった。</li> <li>● リスクアセスメントおよび管理監督者に対する安全管理活動の強化に向けた方針の徹底、教育を実施。</li> <li>● 環境・安全監査や環境・安全推進会議などを通じて当社グループ各社の業務形態を踏まえた情報共有、教育を実施。</li> <li>● 当社グループ内で安全教育ビデオを作成し、社内教育資料に活用開始。</li> </ul>	★★★
		2. 環境パフォーマンス(CO <sub>2</sub> 、水資源、廃棄物、化学物質)の継続的な改善の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第四期中期削減計画達成に向けた取り組みの強化</li> <li>● 環境データの解析による予防対策の推進</li> <li>● カーボンニュートラル達成に向けた活動の推進</li> <li>● 有害化学物質(PRTR対象物質)の削減(使用量削減、原単位対前年度比改善、代替物質への切替えなど)に向けた取り組みの推進</li> <li>● 環境保全活動を向上させるための教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CO<sub>2</sub>、水資源、廃棄物のいずれも2024年度の削減目標を達成。改定第四期中期削減計画を策定し、環境パフォーマンスの改善を推進。</li> <li>● 環境データの解析・予防に役立てるため、データ集計のウェブサービス導入を推進。</li> <li>● 環境・安全推進会議(環境担当者会議)において、目標達成に向けた討議を行い、今後の方針を決定。</li> <li>● 太陽光発電設備の導入、フォークリフトの電動化、省エネルギー性能の高い生産設備への更新を推進。</li> <li>● CO<sub>2</sub>吸収を視野に社有林について整理した森林情報の可視化システムの導入を検討。</li> <li>● 有害化学物質の取扱量は前年度より微増となった。</li> <li>● ISO14001に沿って環境保全教育を継続的に実施。</li> </ul>	★★★★
		3. 生物多様性保全活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業活動が生態系に与える影響をより少なくするための改善を推進</li> <li>● 社有地・鉱山跡地における継続的な緑化活動・山林管理などによる環境保全および生態系再生活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生態系に影響を与える環境データの監視を継続。</li> <li>● 継続的な社有林管理のため、地元の森林組合と今後の立木の伐採・新植に向けた施業計画を策定。</li> <li>● 久根鉱山跡地、足尾鉱山跡地におけるホタルの再生活動を継続。</li> <li>● 社有地における生態系再生活動を継続。</li> <li>● 足尾地区における自然共生サイトへの認定(30by30アライアンスを含む)に向けて関係者・有識者へヒアリングを実施。</li> </ul>	★★★★
		休廃止鉱山 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 知識・技能伝承などによる現場力向上の推進</li> <li>2. 坑廃水処理施設のレジリエンス強化</li> <li>3. たい積場・坑内の予防工事の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 知識・技能向上に向けた社員教育を実施。</li> <li>● 足尾鉱山および久根鉱山において豪雨災害時の坑廃水処理施設のレジリエンス強化を図るための各種工事を実施。</li> <li>● 危険作業の洗い出しを実施し、安全操業を継続。</li> </ul>	★★★★
社会	品質保証委員会	1. 品質に対する認識向上活動の強化(全社)	● 全役職員向けの品質教育資料を年4回配信	★★★★
		2. クレーム件数・費用の削減(機械系事業会社)	● 削減目標を達成するも、更なる削減が必要	★★
		3. 品質保証体制の確立と継続的改善【品質ロードマップに沿った活動の実施】(機械系事業会社)	● 品質ロードマップに沿った活動を実施	★★
		4. 品質保証体制の強化【既存手法の見直し、新手法の活用検討】(素材系事業会社)	● FMEAの活用を推進(実施したFMEAの横断的なレビューや書式の見直しなど)	★★★★

★★★★目標達成 ★★目標一部達成 ★目標未達成

ESG	活動組織	2024年度の目標	結果	評価	
社会	人事総務部	1. 人材育成・確保 ● タレントマネジメントシステムの導入 ● カテゴリ別教育方針の確立 ● ジョブローテーションの活性化 ● 専門職群若手社員向け研修実施	● タレントマネジメントシステムの導入(考課、目標管理のシステム化) ● 階層別研修、技術者研修、現場管理者研修、事業所企画研修・教育訓練、専門職群若手社員向け研修の実施	★★	
		2. 社内環境整備 ● 年間総実労働時間の削減(2,000時間未満) ● 健康経営優良法人ホワイト500認定に向けた取り組みの実施 ● 管理共通業務の集中化	● 1,922.2時間 ● 健康経営優良法人2025ホワイト500 不認定 ● エンゲージメントサーベイ実施検討 ● 借上社宅管理業務の一元管理検討実施	★★	
		3. ダイバーシティの推進 ● 女性管理職比率の向上 ● 障がい者雇用の強化	● 女性管理職比率(連結)4.1% ● 障がい者雇用率(連結)1.91% ● 障がい者雇用支援機関訪問 ● 各事業会社への雇用推進情報提供	★★	
	資材部	1. 海外サプライヤーへのCSRアンケート実施	● アンケート実施・分析済	★★★★	
		2. 主要取引先のマネジメント(QCD+サステナビリティ)強化	● 災害時の初動体制強化を目的としたサプライヤー管理ソフトの本社での運用開始	★★	
		3. 取引先とのパートナーシップの醸成	● 生産説明会実施	★★★★	
		4. 全社的なサステナビリティを意識した調達推進活動の開始	● 全資材部門および関係役職への東京法務局による人権研修の実施	★★★★	
	企業統治	リスクマネジメント委員会	1. リスク一覧表を運用した全社的なリスクマネジメントの実践	● リスク分析を実施し、影響度が大きいリスクについて取締役会へ答申	★★★★
			2. 環境リスク部会における環境リスクの審議および委員会への答申	● 気候変動リスクについて審議し、リスクマネジメント委員会へ答申	★★★★
3. 人権リスク部会における人権リスクの審議および委員会への答申			● 人権リスクについて審議し、リスクマネジメント委員会へ答申	★★	
4. グループBCP部会におけるBCP・マニュアルの整備および委員会への答申			● BCPの見直しを実施し、リスクマネジメント委員会へ答申	★★★★	
5. 情報セキュリティ部会における体制整備および委員会への答申			● インシデント対応マニュアルを策定、体制を整備し、リスクマネジメント委員会へ答申	★★★★	
コンプライアンス委員会		1. 独占禁止法マニュアル等の拡充	● 独占禁止法マニュアルのリニューアル案を作成中	★★	
		2. コンプライアンス研修の拡充	● 法務関連情報サイトを開設し、研修動画を掲載	★★★★	
		3. コンプライアンス意識調査の実施	● コンプライアンス意識調査を実施し、2025年2月開催の取締役会にて結果を報告	★★★★	
		4. 内部通報制度の名称変更および周知策の検討・実施	● 2025年4月1日付で内部通報制度の名称を変更。周知策については準備中	★★	

古河機械金属グループのサステナビリティ

サステナビリティ活動の目標と結果

環境 Environment

社会 Social

企業統治 Governance

データ Data

## 2025年度の目標

ESG	活動組織	2025年度の目標
環境	環境安全管理委員会	<p>1. 労働安全衛生活動 無事故・無災害に向けた取り組みの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全衛生管理体制の強化(確実なPDCA実施)               <ul style="list-style-type: none"> <li>①作業手順書作成の推進および最新版管理</li> <li>②リスクアセスメントの実施強化</li> <li>③設備保全点検実施と確実な記録管理</li> </ul> </li> <li>● 安全衛生教育の強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>①教育訓練計画の確実な実施と記録および有効性確認</li> <li>②朝礼、作業前ミーティング時のKY活動(体調確認を含む)・危険感受性向上の徹底</li> <li>③入社3年未満社員の作業(研修中や作業外行動等を含む)に対する危険行動の注意監視</li> </ul> </li> </ul>
		<p>2. 環境保全活動 改定第四期中期削減計画およびカーボンニュートラル達成に向けた環境パフォーマンスの継続的な改善の推進 2025年度単年度目標(対2023年度比)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● CO<sub>2</sub>排出量 △1.5%</li> <li>● 水資源使用量原単位 △0.67%</li> <li>● 廃棄物等総排出量 △0.67%</li> <li>● プラスチック廃棄物排出量 △0.67%</li> <li>● PRTR対象物質の排出量・移動量 △0.67%</li> </ul> <p>(1)環境マネジメントシステムの確実な運用の徹底 (2)各種環境保全データの確実な収集および有効活用の推進 (3)設備保全の推進による設備事故・環境事故ゼロ (4)従業員一人ひとりの環境保全に対する自覚教育の推進 (5)環境法令改正への的確な対応と遵守</p>
		<p>3. 生物多様性保全活動 ネイチャーポジティブに向けた生物多様性保全活動の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業活動の生態系への影響を最小化           <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)環境負荷を低減する技術の導入とプロセス改善</li> <li>(2)生態系に配慮した資材利用および生産活動の推進</li> </ul> </li> <li>2. 社有地・鉱山跡地の生態系再生と山林管理           <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)社有地や鉱山跡地での緑化活動と生態系再生活動の推進</li> <li>(2)地域住民と連携した保全活動の実施</li> <li>(3)山林の適切な管理</li> </ul> </li> <li>3. 従業員の生物多様性に関する意識向上           <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)生物多様性に関する情報共有および教育の推進</li> </ul> </li> </ol>
		<p>休廃止鉱山</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知識・技能伝承等による現場力向上の推進           <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人材確保と人材育成</li> </ul> </li> <li>2. 坑廃水処理施設のレジリエンス強化</li> <li>3. たい積場・坑内の予防工事の推進           <ul style="list-style-type: none"> <li>● ずい道内作業用ロボットの開発</li> </ul> </li> </ol>
社会	品質保証委員会	1. 品質保証方針と行動指針の浸透
		2. クレーム件数・費用の削減(機械系事業会社)
		3. 品質保証体制強化(機械系事業会社：品質ロードマップに沿った活動)
人事総務部	4. 品質保証体制強化(素材系事業会社：FMEAの活用を推進)	
	<p>1. 人材育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● タレントマネジメントシステムの運用</li> <li>● ジョブローテーションの活性化</li> <li>● 人材価値向上に向けた研修、教育</li> </ul>	
	<p>2. 社内環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間総実労働時間の削減(2,000時間未満)</li> <li>● 健康経営優良法人ホワイト500認定に向けた取り組みの実施</li> <li>● 管理業務の一元管理化</li> <li>● 業務効率化に向けた設備等の整備</li> </ul>	
		<p>3. ダイバーシティの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性管理職比率の向上</li> <li>● 障がい者雇用の推進</li> </ul>

ESG	活動組織	2025年度の目標
社会	資材部	1. 国内事業会社における海外調達先CSRアンケート実施
		2. 主要取引先のマネジメント(QCD+サステナビリティ)強化
		3. 取引先とのパートナーシップの醸成
		4. 全社的なサステナビリティを意識した調達推進活動の継続
企業統治	リスクマネジメント委員会	1. リスク一覧表を運用した全社的リスクマネジメントの実践
		2. 環境リスク部会における環境リスクの審議および委員会への答申
		3. 人権リスク部会における人権リスクの審議および委員会への答申
		4. グループBCP部会におけるBCP・マニュアルの整備および委員会への答申
		5. 情報セキュリティ部会における体制整備および委員会への答申
	コンプライアンス委員会	1. 独占禁止法マニュアル等の拡充
		2. コンプライアンス意識調査の結果を活用した個別の違反調査、指導等の実施
		3. 当社グループにおける下請法(取適法)・フリーランス法への対応状況の調査
		4. 「古河機械金属グループ コンプライアンスヘルプライン」に関するQ&Aの作成および研修の実施

## 部門別SDGs貢献目標

### CSVの視点を織り込んだ「マーケティング経営」によるSDGsへの貢献

古河機械金属グループはCSVの視点を織り込んだ「マーケティング経営」を実践し、「社会インフラ整備」と「安全で環境に優しい豊かな社会の実現」という「社会価値」を創造することでSDGsの目標達成に貢献します。

部門	主な製品・技術・サービス	貢献度が高いSDGs目標(◎：特に重要、○：重要)						
		3 環境 清潔なエネルギー	6 安全な水と衛生	7 エネルギー クリーン	9 産業と インフラ	11 持続可能な 都市とコミュニティ	12 持続可能な 消費と生産	13 気候変動 対策
産業機械	 ポンプ  ベルトコンベヤ  橋梁・鋼構造物	○	◎	○	◎	◎	○	○
ロックドリル	 トンネルドリルジャンボ  油圧クローラドリル  油圧圧砕機			○	◎	◎	○	
ユニック	 ユニッククレーン  ミニ・クローラクレーン  オーシャンクレーン			○	◎	◎		
金属	 電気銅			○	◎	◎	○	
電子	 高純度金属ヒ素  コイル  窒化アルミセラミックス			○	◎	◎	○	
化成製品	 硫酸  硫酸バンド  亜酸化銅		◎	○	◎	◎		